

# 経済ニュースから学び話題を豊富に

～日本とアジアの産業界はどう動いているのか～

兵庫県立洲本実業高等学校 校長 投石 文子  
教諭 野口 遵

## 1. はじめに

本校は、本年度初めて NIE の活動に参加した。国際ビジネス科 3 年生の選択授業でビジネス経済を学ぶ者を対象に、「日本とアジアの産業界はどう動いているのか」というテーマで経済ニュースを読ませる取り組みを始めることにした。社会の動きを知っていること、その内容に一般常識程度の知識があること、これらは卒業後の職場でコミュニケーションを取る上で欠かせないものとなる。卒業者の半数以上が就職する現状を考慮し、高校在学中に新聞を読む習慣を付けさせたいと考えた。

## 2. 実践の概要

### (1) 新聞の掲示と整理

対象の生徒が授業で使用する教室の後ろに長机を並べ、1週間分の新聞を置くようにした。このことで、教室を利用する全ての生徒がニュースを読める環境を整えた。

1週間が経過した後は、長机の横にあるロッカーに新聞各紙ごとに重ねて置き、何か記事を探したい時にも対応できるようにした。

### (2) 取り組み 1

NIE 活動に取り組む最初の年のため、新聞が届くのが9月からということで、1カ月間を記事選びに当てた。生徒が興味を持つ記事がどれほどあるのか、どれくらいの頻度でニュースが出てくるのか、予測が難しい中1カ月という期間で区切って、試験的に取り組んだ。

具体的には、生徒に対して「自分が関心を持った記事を一つ選び、それを皆の前で発表する形でニュースを伝えよう」と指示し、取り組みを始めた。

生徒が選んだテーマは、「ヤマダ電機が量販店モデル脱却」「2020年までにIT関連の外国人専門技術者を倍増する政府の計画」「ユニクロがライバルとして意識するのはアマゾン」「18歳をどこまで大人とするか（選挙権、飲酒、喫煙）」「光ピックアップ技術のパイオニアが自動運転開発に参入」「企業間の競争で垣根が消える（ロボット研究に吉本興業とコラボ、数理工学の専門家と製薬会社

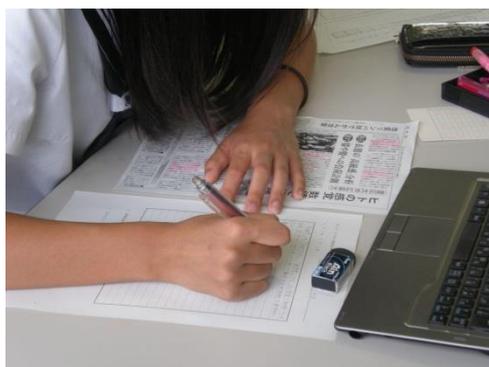
がコラボ)」「イオンはメコン川流域へ進出(2億人の消費を争奪)」「マイナンバー制度」「中国でのスマホ事情(アップル、サムスン、シャオミ、锤子科技)」「ドローンへの法規制が整備」「電力の販売に非電力各社が参入」などであった。

### 生徒の活動と留意点

- 1 記事を読み、内容をまとめる  
まとめた内容を教師がチェックしながら、次の「調べる」段階へ進むヒントを与えておく
- 2 分からない箇所や関連内容を調べる  
生徒がしっかりと理解できていない箇所、あいまいな箇所は詳しく調べさせる。そうすることで、関連内容に関する知識も広がる



- 3 プレゼンテーション用ソフトウェアを使用してスライドにまとめる  
的確な言葉を使い、図やグラフなど画像データを効果的に使用して、見やすく仕上げることを意識させる。この作業を通して、ソフトウェアの使い方とデータの活用にも慣れさせる



- 4 発表する  
聞き手の反応を見ながら話すこと、聞き取りやすい声の大きさと抑揚を心掛けさせる

- 5 お互いの発表を相互評価する  
お互いの発表を評価することで、自分自身の力量を伸ばせるように、お互いに学び取らせる



まず、1回目の取り組みは作品課題として完成までの期限を設けて、学習は放課後に学校や自宅で進める形式にした。各自が選んだ記事について、要点をまとめて提出させた。添削して生徒に返却する際は、授業時間の中で個々に質問をして、生徒に対して次の段階として調べる内容を指示しておく。そして、調べてみて何か疑問点が生じた場合は、授業の前後や放課後に対応した。データの活用とかスライド作成における技術的な点も、同様に授業以外の時間で対応した。指示された期限内に完成が難しい場合は、放課後に補習して仕上げるようにした。発表は各人5分以内とし、相互評価によってお互いの発表のより良い点を学び取る

機会とした。

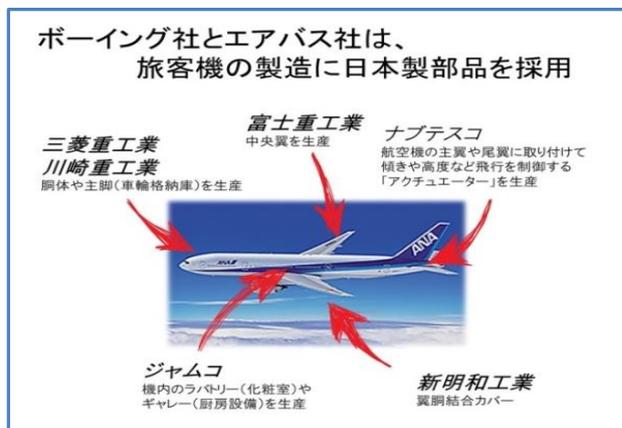
(3) 取り組み2

3学期には、授業時間に新聞記事をまとめさせた。前回の相互評価を通して得た経験を生かし、生徒個々がスキルアップを図れるように取り組ませた。履修生徒の半数以上が就職する現状において、ソフトウェアの活用に慣れておくことは、将来において必要である。

学習計画（全5時間）

配当時間	学習活動	指導上の留意点
1時間	新聞記事の選択 記事の要点をまとめる 要点の添削	・共同作業ではなく、1人1テーマとする ・早くまとめ記入できた者から順に添削していく
2時間	要点の添削 関連内容を調べる スライド作成	・発表時に、質問を受けても対応できるように、関連知識も含めて幅広く知識を得させておく ・前回の反省点を改善できるように、スライドの作成にあたっては文字の大きさや色遣いに注意させて、見やすいものに仕上げさせる
2時間	発表と相互評価	・各人5分以内での発表とする ・発表の良い点を評価シートに記述させる

生徒の作品（一部紹介）



作品A

旅客機に日本製の部品が採用されることになり、6社がそれぞれ設備投資して工場を増やし、雇用も確保する動きがある。各社は、最先端の生産技術と独自の品質管理に定評がある。



作品B

8Kモニターが開発され発売される。4年後の買い替え需要を狙っての動き。これまでも、オリンピックを機にテレビの新製品開発と買い替えが進んできた。8Kとはフルハイビジョンの16倍の解像度である。

### 3. アンケート結果より

新聞購読に関する環境については、家庭で新聞を購読していない生徒が55%おり、これまでに新聞を読んだ経験については「あまり読まない」と「全く読まない」を合わせて80%であった。ニュースなどの情報はスマートフォンやテレビから得ているという回答が90%に達している。新聞を読めば、目的の情報以外にも幅広い内容を目にすることもできるが、スマートフォンなどインターネットを通じての場合には、意図的に限定された情報に限られる場合も多く、バランス良く幅広い知識を身に付ける点で問題がある。

授業後のアンケートでは、「文章を読む力が身に付いた」「日本の企業とか産業界の動きを知ることができた」「内容をまとめる力がついた」などの感想が多くあった。新聞の必要性について、50%の生徒は「テレビやスマートフォンで十分」と考えており、「新聞も必要」と答えたのは約40%であった。また、今後は「機会があれば、新聞を読むと思う」と答えた生徒が70%おり、これまではあまり新聞を読んでいなかった生徒も含めて、授業でのNIE活動に対しては肯定的な回答がほとんどであった。

### 4. 成果

昨年までも、新聞各社の第一面にあるコラムを生徒に読ませてきた。短い文章で読みやすいこと、起承転結が明確で無駄のない展開で話がまとめられていて、文章を書く場合の手本にもなるからである。また、時事的なニュースや身近な話題が多く取り上げられ、それに対する問題点や捉え方の参考にもなって、就職や進学での面接試験に対する備えとして活用もできる。この取り組みの延長線上にNIE活動があり、今回の活動に結びついている。

実行してみて、生徒が興味や関心を持つニュースの中身や質が異なってきたと感じている。過去の出来事を記したニュースだけでなく、将来に向けた動きが記事になっている場合もあり、面接試験に対しての備えとしても深みを持たせることができた。さらに、これを機に生徒が新聞に目を向ける習慣が身に付けば、社会人としてのコミュニケーション能力を高められると考えられる。

また、教科書で学習した「近年アジア諸国との関わりが深くなっている」ことが、新聞の具体的な経済活動の記事を通して学習できたため、生徒に授業内容をしっかりと記憶させる取り組みともなった。

生徒へのアンケート結果によれば、多くの生徒が新聞記事をまとめるにあたって関連記事を探したり、インターネット上で関連情報について調べたりしており、一つの事柄から波及した学習が展開できていたことが分かり、これも成果の一面として感じている。